

のと推測される。

(3) 教員について（項目 8・9）

この領域においても肯定的回答が圧倒的であった。例えば、項目 9「この授業の教員は、十分な準備をして臨んでいました」については<そう思う>群 89.9%、<そう思わない>群 2.1%であった。

(4) 授業環境について（項目 10～13）

この領域でも肯定的回答が圧倒的に多いが、なかでも肯定的回答が最も多かったものは、項目 11「この授業の休講の数は、少なかった」(<そう思う>群 91.5%、<そう思わない>群 2.7%)である。一方、項目 12「この授業の板書の文字は、読みやすかった」に関しては<そう思わない>群 4.8%、<そう思う>群 80.3%となっており、項目 1～13のうちでは否定的回答の割合が最も高い。これより、板書の読みやすさに関して不満を持っている学生が一定程度存在していることが読み取れる。また、項目 13「この授業で使用された OHP・ビデオ・プレゼンなどは、見やすかった」については 20.2%が「無記入又は該当なし」、項目 12（板書の文字の読みやすさ）については 22.7%が「無記入又は該当なし」に分類されているが、これらは質問項目に「該当する内容が無かった場合は回答不要」と付記されている項目であるため、該当する内容がなかった場合に無記入であったものと推測される。

(5) 日本大学共通項目（項目 14～19）

この領域においては、おおむね肯定的回答が否定的回答を上回っているものの、否定的回答が比較的に高い割合を占めている。とくに、項目 14「この授業科目に関し、授業時間外（授業終了直後を含む）に、担当教員に対し質問等をしましたか」については<そう思わない>群 40.4%、<そう思う>群 38.9%と、唯一否定的回答が上回っていた。また項目 15「この授業科目に関し、授業時間外に、学生間で共に学修しましたか」についても、<そう思わない>群 33.4%、<そう思う>群 44.3%となっており、否定的回答の割合が高い。

また、この領域では、回答が<そう思う>群と<そう思わない>群とに還元されない質問項目も含まれている。項目 18「この授業科目を 1 週（回）受けるに当たり、授業時間以外で学修（予習、復習、課題等）にどのくらい取り組みましたか」については、「取り組んでいない」が 34.5%で最も多く、次いで「1 時間未満」が 26.2%となっている。また、項目 19「この授業科目を受けるに当たり、図書館をどのような目的で利用しましたか（複数回答可）」については、「全く利用していない」が 75.8%、「文献資料を閲覧・借りた」が 15.2%となっている。これらより、授業外での学修にかかる時間やその方法に関して、大きな課題のあることが推測される。

(6) 教員オプション質問（項目 20～25）

教員オプション質問は、希望する教員が任意に設定した項目であるため、全体的傾向を示すことはできないが、担当教員に回答結果をフィードバックして授業改善に役立てられるようにした。追加の質問はほぼなく、規定の質問で十分であったと思われる。

### 3. コメント

全般的傾向としてはおおむね例年通りの結果となっている。

## 令和元年度授業評価アンケート（全学共通項目 抜粋）回答分析

め、該当する内容がなかったことから無記入であったものと推測される。

### (3) 教員について（項目 8・9）

この領域においても肯定的回答が圧倒的であった。例えば、項目 9「この授業の教員は、十分な準備をして臨んでいました」については<そう思う>群 91.0%、<そう思わない>群 1.7%であった。

### (4) 授業環境について（項目 10～13）

この領域でも肯定的回答が圧倒的に多いが、なかでも肯定的回答が最も多かったものは、項目 11「この授業の休講の数は、少なかった」(<そう思う>群 92.8%、<そう思わない>群 1.6%)である。一方、項目 12「この授業の板書の文字は、読みやすかった」に関しては<そう思わない>群 4.5%、<そう思う>群 83.1%となっているが挙げられている。項目 1～13のうちでは否定的回答の割合が最も高い。これより、板書の読みやすさに関して不満を持っている学生が一定程度存在していることが読み取れる。

項目 12（板書の文字の読みやすさ）については 26.7%が「無記入又は該当なし」に分類されている、また、項目 13「この授業で使用された OHP・ビデオ・プレゼンなどは、見やすかった」については 18.6%が「無記入又は該当なし」となっているが、これらは質問項目に「該当する内容が無かった場合は回答不要」と付記されている項目であるため、該当する内容がなかったことから無記入であったものと推測される。

### (5) 日本大学共通項目（項目 14～19）

この領域においては、おおむね肯定的回答が否定的回答を上回っているものの、否定的回答が比較的の高い割合を占めている。とくに、項目 14「この授業科目に関し、授業時間外（授業終了直後を含む）に、担当教員に対し質問等を行いましたか」については<そう思わない>群 40.6%、<そう思う>群 38.4%と、唯一否定的回答が上回っていた。また項目 15「この授業科目に関し、授業時間外に、学生間で共に学修しましたか」についても、<そう思わない>群 33.7%、<そう思う>群 44.7%となっており、否定的回答の割合が高い。

また、この領域では、回答が<そう思う>群と<そう思わない>群とに還元されない質問項目も含まれている。項目 18「この授業科目を 1 週（回）受けるに当たり、授業時間以外で学修（予習、復習、課題等）にどのくらい取り組みましたか」については、「取り組んでいない」が 32.2%で最も多く、次いで「1 時間未満」が 28.9%となっている。また、項目 19「この授業科目を受けるに当たり、図書館をどのような目的で利用しましたか（複数回答可）」については、「全く利用していない」が 64.1%、「文献資料を閲覧・借りた」が 14.0%となっている。これらより、授業外での学修にかかる時間やその方法に関して、大きな課題のあることが推測される。

### (6) 教員オプション質問（項目 20～25）

教員オプション質問は、希望する教員が任意に設定した項目であるため、全体的傾向を示すことはできないが、担当教員に回答結果をフィードバックして授業改善に役立てられるようにした。追加の質問はほとんどなく、規定の質問で十分であったと思われる。

## 3. コメント

全般的傾向としてはおおむね例年通りの結果となっている。

う>群 87.3%，<そう思わない>群 3.6%である。一方、否定的回答が比較的多い項目としては、項目 6「この授業内容と関連することを、さらに学習したいと思いました」<そう思わない>群 7.2%，<そう思う>群 76.5%となっており、項目 1～13のうちでは否定的回答の割合が最も高い。

(3) 教員について（項目 8・9）

この領域においても肯定的回答が圧倒的であった。項目 8「この授業を通して、教員の熱意を感じました」については<そう思う>群 85.4%，<そう思わない>群 4.0%，項目 9「この授業の教員は、充分な準備をして臨んでいました」については<そう思う>群 87.8%，<そう思わない>群 2.8%であった。

(4) 授業環境について（項目 10～13）

この領域でも肯定的回答が圧倒的に多いが、なかでも肯定的回答が最も多かったものは、項目 11「この授業の休講の数は、少なかった」<そう思う>群 93.4%，<そう思わない>群 1.9%である。一方、項目 13「この授業で使用された OHP・ビデオ・プレゼンなどは、見やすかった」に関しては<そう思わない>群 3.7%，<そう思う>群 77.9%となっており、項目 1～13のうちでは否定的回答の割合が最も高い。

(5) 日本大学共通項目（項目 14～19）

項目 14 及び項目 15 では、否定的な回答が上回っている。項目 14「この授業科目に関し、授業時間外（授業終了直後を含む）に、担当教員に対し質問等をしましたか」については<そう思わない>群 48.6%，<そう思う>群 29.5%，及び項目 15「この授業科目に関し、授業時間外に、学生間で共に学修しましたか」についても、<そう思わない>群 47.2%，<そう思う>群 33.1%となっている。

項目 16「課題（レポート、小テスト等）に対し、担当教員から学生へのフィードバック（評価や講評等の開示）はありましたか」については<そう思う>群 59.4%，<そう思わない>群 16.9%，項目 17「授業時間外の学修（内容、方法等）について、担当教員から具体的（シラバスに明記を含む）に示されましたか」については<そう思う>群 63.3%，<そう思わない>群 10.5%となっている。

この領域では、回答が<そう思う>群と<そう思わない>群とに還元されない質問項目も含まれている。項目 18「この授業科目を 1 週（回）受けるに当たり、授業時間以外で学修（予習、復習、課題等）にどのくらい取り組みましたか」については、「1 時間以上」が 47.3%，「1 時間未満」が 52.7%となっている。項目 19「この授業科目を受けるに当たり、図書館をどのような目的で利用しましたか（複数回答可）」については、「全く利用していない」が 87.4%となっている。

(6)自由記述欄

自由記述欄には、前期 1,575 件、後期 888 件の記入があった。

3. コメント

当年度は、コロナ禍のオンラインを主体とした授業による影響から、前年度と比べ、学修時間が長くなった一方で、授業時間外の学生のコミュニケーションの時間が少なくなったことが伺える。